

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

分担研究報告書

がん緩和医療を在宅で実践するための精神医学的介入に関する研究

研究分担者 内富 庸介 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 精神神経病態学 教授
研究分担者 井上真一郎 岡山大学病院 精神科神経科 助教

研究協力者 井上真一郎 岡山大学病院 精神科神経科 助教
岡部 伸幸 岡山大学病院 精神科神経科 助教
小田 幸治 岡山大学病院 精神科神経科 助教
川田 清宏 岡山大学病院 精神科神経科 助教
矢野 智宣 岡山大学医学部 客員研究員
馬場華奈己 岡山大学病院 看護部 精神看護専門看護師
土山 璃沙 岡山大学病院 医療技術部 臨床心理士
大柳 貴恵 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学 臨床心理士
嶋本 恵 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学 臨床心理士

研究要旨

がん在宅医療においてせん妄は多くみられる精神疾患であるが、そのうち治療可能性の比較的高いものが多いにもかかわらず、実際には対応に難渋するとの理由でやむを得ず在宅医療が中断され入院に至るケースが存在している。そこで、在宅医療に携わる医師や訪問看護師が、せん妄について正確に診断できるのみならず治療可能性に関しても評価できる知識やスキルの習得を目的とした教育プログラムを構築する。

A．研究目的

せん妄はがん在宅医療において高頻度に見られる精神疾患であり、在宅医療の障壁となりうる。よって、在宅医療に携わる医師や看護師がせん妄に関しての知識やスキルを習得することが重要である。本研究では、ロールプレイを用いたせん妄研修会の開発を目的とする。

を対象とし、せん妄研修会を行う。研修会では、がん在宅医療におけるせん妄の特徴や対応などについての講義を行い、また前述のビデオにて学習を行う。また、模擬家族を用いたロールプレイにより、診断・治療などのスキルを習得する。

B．研究方法

在宅医療におけるせん妄への対応について、知識やスキルを盛り込んだビデオを作成する。
臨床経験5年以上の在宅医及び訪問看護師

C．研究結果

平成26年8月9日に室蘭（医師4名、看護師6名）、同年8月30日に佐賀（医師3名、訪問看護師7名、薬剤師1名、ケアマネージャー3名、栄養士1名、介護職6名、管理者1名）

同年9月6日に横浜(医師5名、看護師26名、ケアマネ2名)、同年9月27日に大船渡(医師1名、訪問看護師12名、理学療法士4名)で研修会を開催した。合計で82名の参加を得た。研修会前後で自信度などを問う質問紙による調査とせん妄の知識を問うテストを行い、比較を行った。

D . 考察

テストはせん妄の知識を問うもので10問からなる。研修会の前後で同一内容の試験を行い比較検討したところ、研修前に行ったテストは平均値5.52、標準偏差1.21、研修後のテストは平均値7.01、標準偏差1.34であった。テストの合計点平均値を対応のあるt検定で比較したところ、 $p=0.030 (<0.05)$ となり、有意に差があると考えられた。

また、質問紙調査では、自己効力感などを問う質問(10件法)に関して、研修前の平均値が59.80、標準偏差36.22、研修後の平均値が113.98、標準偏差37.80であった。対応のあるt検定では、 $p=0.000 (<0.05)$ となり、同様に有意差を認めた。

各研修会場地別に見ても、テスト結果と自己効力感どちらにおいても有意な差が認められた。

なお、実施したテストと質問の内容については、別紙1および2を参照されたい。

E . 結論

平成25年度の報告においては、サンプルサイズの小ささを問題点として挙げていたが、今年度は82名の参加者を得、新たに比較検討を実施し、有意な効果が示された。このことから、本研修会は参加者に対して一定の満足度と効果を与えることができたと考えられる。

今後の課題として、全国各地で同様の効果が得られる研修会を開催していけるように、指導者育成プログラムを検討することが挙げられる。

F . 健康危険情報

なし

G . 研究発表

1 . 論文発表

1. Akechi T , Uchitomi Y : PART12 Neuropsychiatrics 69 Depression/anxiety , Eduardo Bruera, Irene J. Higginson, Charles F. von Gunten, Tatsuya Morita : Textbook of Palliative Medicine and Supportive Care, Second Edition ,CRC Press ,Florida ,2014 , pp691-702 , 2014.12.11
2. Fujimori M, Uchitomi Y , et al: Effect of communication skills training program for oncologists based on patient preferences for communication when receiving bad news: a randomized control trial. J Clin Oncol 32(20): 2166-2172 , 2014.7.10
3. Fujimori M, Uchitomi Y: Reply to B. Gyawali et al. J Clin Oncol 33(2):223-224 , 2015.1.10
4. Morita T, Miyashita M, Uchitomi Y , et al: Nurse Education Program on Meaninglessness in Terminally Ill Cancer Patients: A Randomized Controlled Study of a Novel Two-Day Workshop. J Palliat Med 17(12) : 1298-1305 , 2014 9.16
5. Shibayama O, Akechi T, Ogawa A, Uchitomi Y , et al: Association between adjuvant regional radiotherapy and cognitive function in breast cancer patients treated with conservation therapy. Cancer Med. 3(3) : 702-709 , 2014.6
6. Terada S, Uchitomi Y , et al: Development and evaluation of a short version of the quality of life questionnaire for dementia. Int Psychogeriatr 27(1):103-110 , 2015.1 doi: 10.1017/S1041610214001811. Epub 2014.8.27
7. 馬庭真利子, 内富庸介, 他: 脳腫瘍術後の器質性精神障害に paliperidone が有効であった1例, 臨床精神薬理 17(1) : 75-80, 2014.1.10
8. 樋口裕二, 内富庸介, 他: 身体疾患とうつ病 各種疾患・病態におけるうつ病・気分障害の合併の実情・がん治療・緩和ケアと

うつ病, Depression Journal 2(2):52-55,
2014.8

9. 樋口裕二, 内富庸介, 他: 腫瘍医へのコミュニケーション技術訓練, Depression Frontier 12(2): 33-39, 2014

2. 学会発表

1. 安藤満代, 内富庸介, 他: がん患者への精神的・心理的ケアとしてのライフレビュー・アートセラピーの実行可能性, 第 27 回日本サイコオンコロジー学会総会, 東京 2014.10.3-4
2. 井上真一郎: 在宅医療におけるがん患者・家族の精神心理的ケア, 第 16 回日本在宅医学会大会, 静岡 2014.3.1
3. 井上真一郎: 終末期におけるせん妄マネジメント, 第 19 回日本緩和医療学会学術大会, 兵庫 2014.6.20
4. 井上真一郎: 多職種チームによる術後せん妄の予防的介入が無効であった症例の検討, 第 110 回日本精神神経学会, 神奈川 2014.6.27
5. 井上真一郎: せん妄に対するチームアプローチ, 第 27 回サイコオンコロジー学会, 千葉 2014.10.4
6. 井上真一郎: プロナンセリンによるせん妄薬物治療の一考察, 第 55 回 中国・四国精神神経学会, 山口 2014.10.24
7. 井上真一郎: 特別講演「精神医学と緩和医学の接点の研究について」, 第 14 回中国地区 GHP 研究会, 広島 2014.11.1
8. 井上真一郎: がん専門病院、大学病院、総合病院における精神腫瘍医 ~それぞれの立場で果たすべき役割の違いとは~, 第 27 回日本総合病院精神医学会, 茨城 2014.11.29

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許の取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし